# Ⅱ　検出遺構の報告

検出した遺構は古墳時代の流路，飛鳥時代の流路，近世の溝・井戸・土坑などであり，確実に中世に属する遺構は検出できなかった。次に，時期別に主な遺構について述べたい。

## 1．古墳時代の遺構

トレンチの東北隅で古墳時代の土器を含む流路（SD6212）を検出し，トレンチの東南隅でも斜行する流路を検出した。蛇行しながら南流する自然の流路の一部と考えられ，その下層には砂，礫などの河川状の堆積が見られる。後述する飛鳥時代の流路(SD6191･6160)はこの自然の流路を整備したものであろう。

SD6212　トレンチの北東隅で検出した遺構で，蛇行しながら南流する流路である。トレンチ北壁の土層断面では，流路の幅は3.3mあり，ほぼ飛鳥時代の流路（SD6191）の幅と等しい。流路の中央部は断面形がレンズ状に深み（幅約80cm）黒灰色粘土が堆積している。これが流路の底であり，ゆるやかに屈曲してトレンチの東辺にかかる。古墳時代の須恵器，や土師器が出土した。

SD6214 やトレンチの南東隅を斜行する自然の流路で幅約4m，深さ約40cm以上。古墳時代の須恵器ノ土師器が出土した。

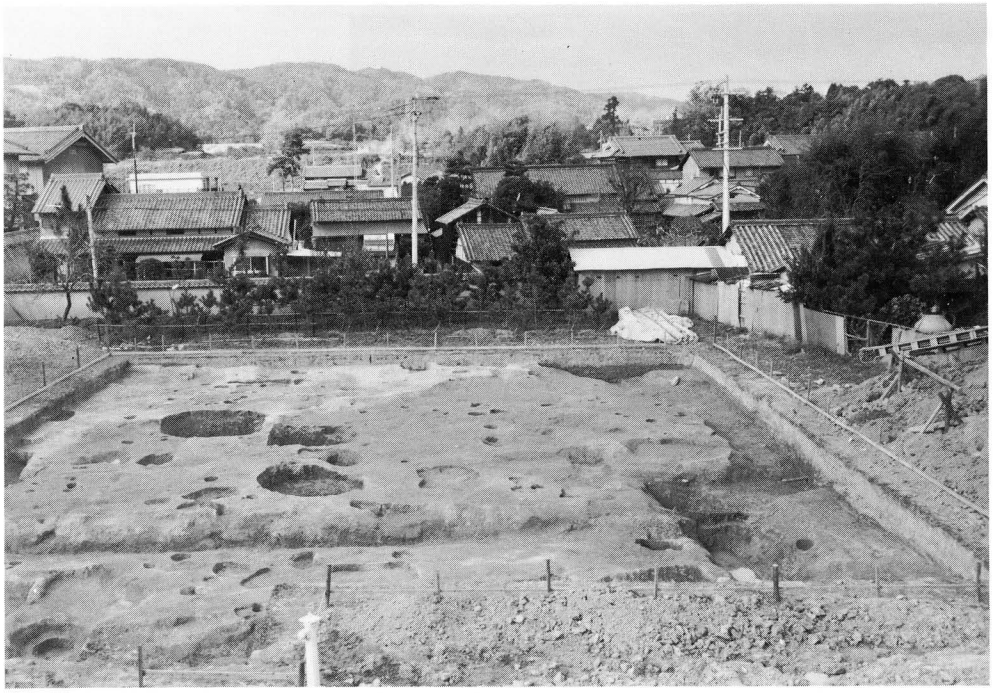
## 2．飛鳥時代の遺構

トレンチの東辺と南辺で飛鳥時代の流路(SD6191・SD6160）を検出した。近世の遺構により分断されているが，元来は一連のものと考えられ，SD6160とSD6191から出土した遺物の中には接合できるものがある。

SD6191　トレンチ東辺で検出した幅約3.5m，深さ60cmの流路で，北から南へ流れる。上流はトレンチ外に続いている。南側は近世の遺構で切られている。飛鳥時代の土器，瓦等の遺物が出土した。

SD6160　トレンチの南辺で検出した流路で幅約2m，深さ約50cm，東北から西南に流れる。昭和56年度第107トレンチでこの流路の一部を検出した。溝内には3段階の堆積がみられ，溝は次第に浅く，幅広くなり，奈良時代までには完全に埋没する。溝内からは飛鳥時代の瓦・土器が出土した。

SK6171　トレンチの中央部東寄りで検出した土坑で，東西4.3mの楕円形。飛鳥時代の土器・瓦等が出土した。トレンチの北西部の拡張区で検出したSK6137は古代のものと考えられる。



**第41図**　調査地全景(上層)

**第42図**　調査地全景(下層)

**第43図**　SD6212(北から)

**第44図**　SD6160(西から)

## 3．近世の遺構

溝・土坑・井戸・埋甕等の遺構を多量に検出した。主な遺構について述べよう。

SX6113・6232・6234　溝状遺構（SD6124）が埋った後その北側に作られた東西方向の石列である。元来は一連の遺構でSX6234・SX6113間にも点々と石列が残り，さらに西側につづく。SX6232では,この石列の南辺に瓦質の土管を並べた排水のための施設が設けられている。昭和57年度第102トレンチで検出したSA1004も同一の遺構と考えられる。土塀の基礎の南側の石積と考えられるが，北側は不明確で幅は明らかでない(SA1004は幅0.7m)。寛政9年の「法隆寺惣境内之図」にみえる発志院と福生院との境界築地の可能性が高い。昭和57年度第102トレンチで検出した土塀（SA1009）の跡は畔としてその痕跡を残すが，今回の調査でも，畔のほぼ下で東西に築地崩壊土と考えられる黄褐粘質土を検出した。

SD6124　幅2～3m,深さ80cmの溝である。トレンチを東西に横断し，発掘区の東辺部で南に折れ曲がる。西方では幅を広げSD6233に連なるものと考えられる。

SD6130　トレンチ中央東辺部で検出した溝である。元来は東から西へ流れ，南へ折れまがりSD6124に注いでいたものと考えられる。しかし，この溝は後にSD6124北肩に設けられたしがらみ（SX6136）で塞き止められている。幅約3m，深さ70cm。

**第45図**　SX6113(東から)

**第46図**　SD6124(西から)

SD6236　SD6130・SD6124の下層で検出した南北方向の溝状遺構で幅1.8m，深さ約1m。SD6124の南北溝部分の下層にあり南へ延びる。最初に南北溝SD6236が掘られ，次にSD6130・SD6124が掘られ，最後にはSD6130が塞き止められ鍵形の溝SD6124だけが機能していたものと考えられる。

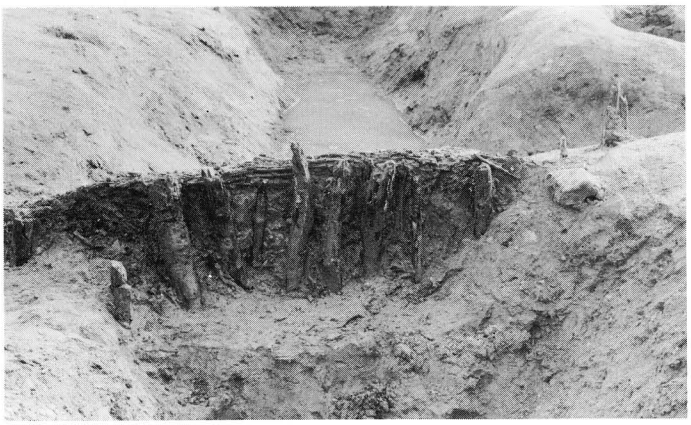
SX6136　SD6130を塞き止めるしがらみである。径約10cmの丸太を２本並行にならべ，その間と両外側に杭を打ち，小枝・竹をからませる。長さ約2.7m，幅約50cm，高さ約60cm。

SX6215　トレンチの西側の拡張込で検出した柱列遺構で橋脚と考えられる。溝SD6233にかかるものであるがSD6233の南側岸は検出していない。柱穴は６箇所，杭は4本検出した。両側の４本が四角にならび，北側の２本の柱にはそれぞれ北側に２本ずつ杭が伴う。

SX6001・6002・6005・6008・6009・6078・6095・6112・6136・6144・6216・6219　近世の甕や鉢などを埋めた所謂埋甕である。12個検出したが多くは底部だけしか残らない。

SE6039　トレンチ北端で検出した井戸である。木製の蓋をかぶせ埋めていた。玉石を積みあげた円形の井戸で直径60cm，深さ3.8m。掘方に沿って平瓦を縦に並べていた。

**第47図**　SX6078埋置状況

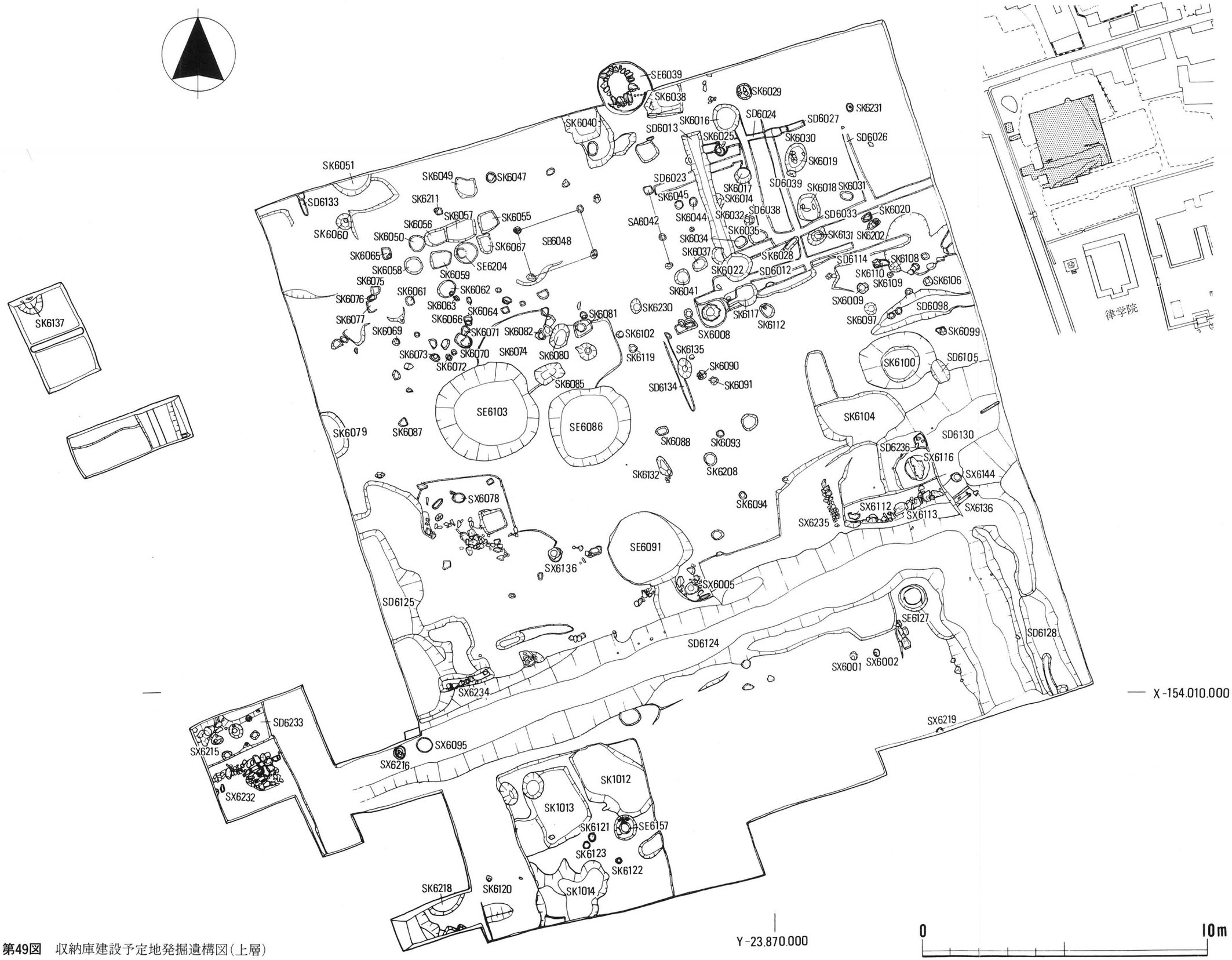


**第48図**　SX6136(北から)

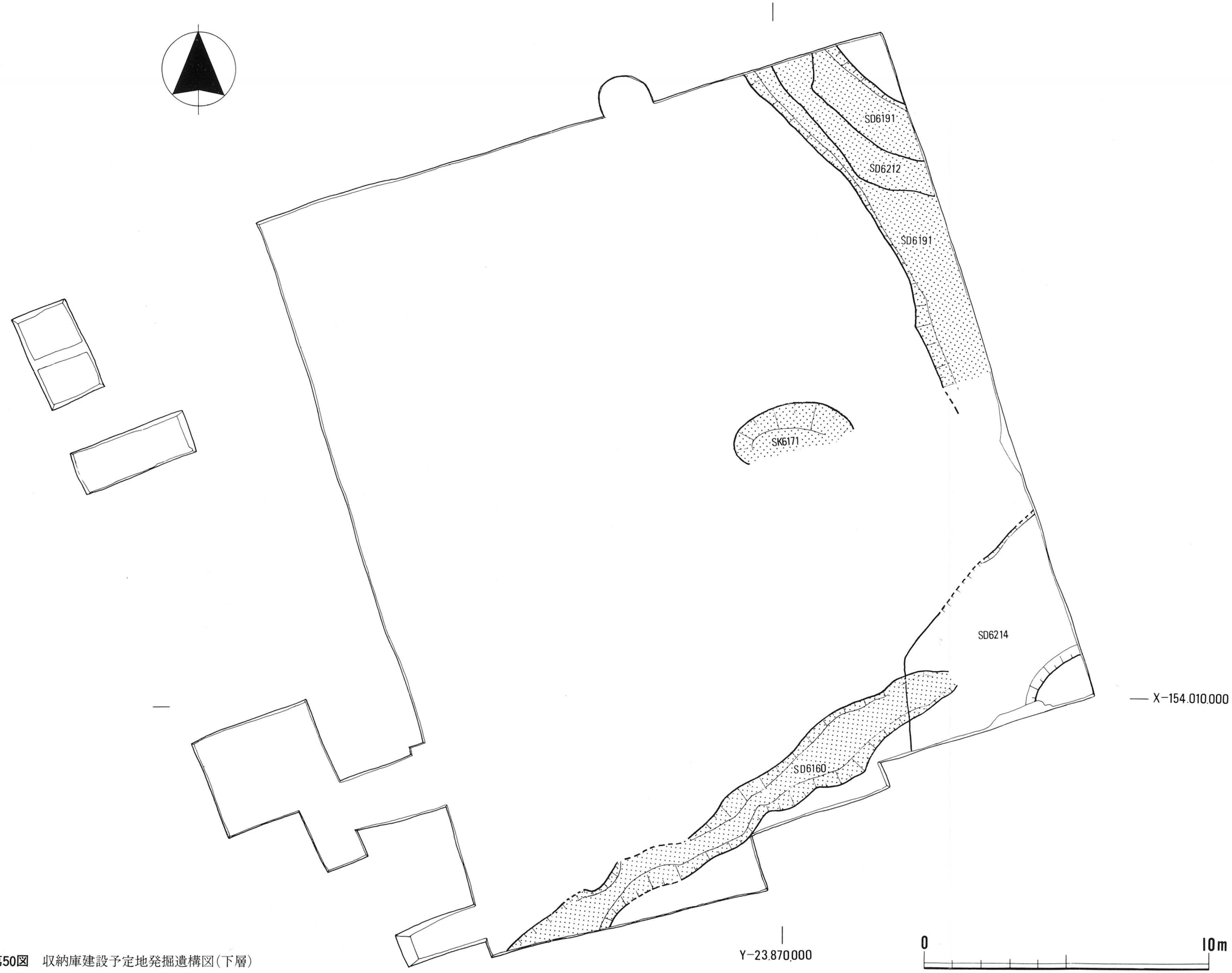
SE6103・6086・6091　いずれもトレンチの中央部で検出した素掘りの井戸である。SE6086の上幅は南北に2.7m，東西2.9mで深さは検出面から4.6m底はほぼ円形で直径は1.5mである。井戸底の埋土から近世の土器が出土した。SE6103・6091は底まで掘り下げていないが出土遺物からみていずれも近世のものである。

SE6127　トレンチの南東部で検出した井戸状の遺構である。

掘方は径１mの円形で，




**第49図**　収納庫建設予定地発掘遺構図(上層)




**第50図**　収納庫建設予定地発掘遺構図(下層)

深さは検出面より80cm。掘方の底より径約60cmに竹を編んだタガが出土した。近世のものと考えられる。

SE6157　トレンチの南西部で検出した井戸状の遺構である。径80cmの掘方の中に径約40cmの曲物を用いた井筒を据える。

SE6204　トレンチの北西部で検出した井戸状の遺構で径80cmの掘方の北西部に径約40cm（高さは30cmまで残る。）の曲物の井筒を据える。検出面からの深さ64cm。

SX6116　SD6130の埋土に作られた遺構で，大型の樋の底板と考えられる直径90cmの板とその掘方を検出した。

SD6048　トレンチの北部で検出した掘立柱建物で１×１間。柱間は東西2.3m，南北1.7m。柱径は約10cm。

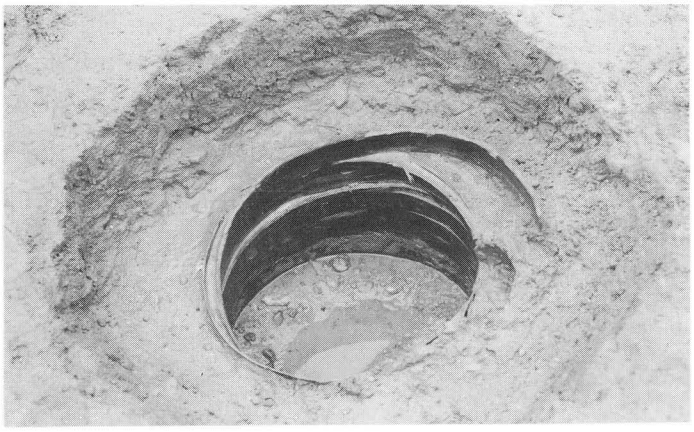
SA6042　SB6048の東側で検出した南北方向の柱列で２間分を検出した。

SX6235　SD6130の西側で検出した南北方向の石列である。東に接して検出したSX6113の下層にあたる。

SD6012・6013・6023・6024・6027・6114・6033　トレンチの北東部で検出した溝状の遺構である。遺構として最も新しいもので近代の深耕に伴うものと考えられる。

その他　この調査では先に述べた遺構以外に多量の土坑を検出した。トレンチ北東部で検出したSK6019・6018・6029には土坑内に根石状に石が敷かれていて，礎石据方の可能性もあるが建物にはまとまらない。他の土坑については，大半は近世のものと考えられるが遺物の出土しないものが多く，中世・古代のものも含む可能性がある。

**第51図**　SE6127



**第52図**　SE6157